



イノベーション大賞『マツタケなのか？椎茸なのか？松太郎』

株式会社INS 代表取締役 永石 俊夫

鈴鹿山脈を背景にして四日市インターから程なく近い矢合川沿いに社屋を構える株式会社INS。入口で体には全く無害だという殺菌ミストを浴びてなかへ立ち入ると、キノコ好きにはたまらない独特の香りがふんわりと漂います。

高付加価値のある融合キノコとの出会い“松太郎”

11年前に椎茸や野菜をつくることから始めた株式会社INS。もともと介護施設を運営しており、その給食に自分たちがつくった食材を使って提供しようと思ったことがきっかけとなりました。特に椎茸は野菜よりも価格が安定しており、工場内で栽培できることから高齢の方々にやりがいを感じてもらうためにも仕事としてお願いし、その後A型就労支援事業所をグループ内につくり障がいのある方々にも働いてもらいました。しかし、椎茸栽培はなかなか採算がとれず、ずっと苦しん



できたそうです。

苦境の中、“松茸菌と椎茸菌をかけあわせた融合キノコ”の話聞いた永石さんは、松茸はキノコの王様だから、そうすると安い金額でしか売れないという問題が、高付加価値

化によって解決できるかもしれない。とひらめき、高齢者や障がいのある方が少しでも自立できるような収入が得られたらという思いから始めました。

松茸菌と椎茸菌をかけあわせた融合キノコに“松太郎”という名前をつけ、研究と栽培を開始。

衛生的な「吊り下げ方式」と「棚置き」を導入し、鈴鹿山脈の伏流水で湿度を保ちながら温度も日々管理。化学的薬品を一切使用せず無農薬にこだわり栽培した松太郎は、予想以上に高い数値のβグルカン、遊離アミノ酸、ビタミンD、その他にもさまざまな栄

養価を含んだスーパーフードとして誕生しました。そして松太郎の栽培・販売だけにとどまらず特殊な技術で、乾燥した松太郎に乳酸菌を加えるなどの栄養価を活かしたサプリメントの開発。廃菌床を利用した無農薬・無肥料の野菜づくり、野菜の宅配ボックス、栽培したものによる農家レストランなど、幅広くビジネス展開していきました。

健康寿命をまっとうできる社会へ松茸のDNAを信じて

「松太郎にはすごい夢があるなと思っています。グルタミンという筋肉を蘇生させる成分のほか、ビタミンDはコロナに効果があるとも言われており、骨粗しょう症を予防するとも言われています。」と永石さん。松太郎の栄養価を活かしたサプリメント“松太郎パウダー”には栄養機能性表示ができるほどのビタミンDが入っており、免疫が向上し、かつ高齢の方が筋肉や骨を増強できることを願い、“松太郎パウダー”を介護施設では高齢者や職員に無償で配り、飲んでいただいているそうです。人の生活の中で、食べ物は大事な存在です。健康寿命をいかに延ばすことができるかどうかは、亡くなる寸前まで普段の食生活や運動に気づかうことなのだを教えてもらいました。

株式会社INSでは松太郎以外にも40品目の野菜をつくっています。農地には松太郎を採り終わったあとの廃菌床を混ぜ込むことで土壌改良され、とてもいい土ができます。廃菌床を活用してつくられた野菜は、全て無農薬、無肥料、かつ強く育つため台風の影響で倒れてもまた戻ろうとする力があり、虫もつきづらい。また野菜の栄養価は高く、普通の野菜の2～3倍はあるそうです。

永石さんは「病気になるような“食べる栄養”をしっかり摂って健康寿命を得る。野菜栽培においてもそういう意識を持つ世界をつくっていききたい」と話してくれました。また農業において、新規就労者が増えない原因のひと

つとして、従業員の賃金の低さがあるといえます。賃金引上げを図るためには、高付加価値の商品を生み出さないといけません。そのために利益を上げていくことにシフトを変えていかなければいけないと農業の未来について厳しく見据えています。

松茸と椎茸の融合キノコとしてインターネットに出すと「そんなことはあり得ない」と言われることが少なくありません。香りの面では松茸にしかない桂皮酸メチルという成分が発見されていますが、もっと深く学術的に解明しようと思い、福島大学の先生に「DNA解析してほしい」と依頼をした永石さん。解析結果として、松太郎から松茸のDNAが見つかり確信をつかんだ永石さんは実証できたことに喜びを噛みしめたと言います。

会社の代表としての行動力だけでなく、発想力や分析力も卓越している印象の永石さんですが、もともと研究職でもなければ、会社には開発部もない。そんな永石さんの周りでは、社員の方々がのびのびと意見を言い、楽しそうに仕事をしています。永石さんたちの構想は今後もとどまることを知らないようです。

温泉で医食同源を目指したコミュニティ

「みんなが楽しくわかちあえるような社会づくり」が重要と考える永石さんは、旅行会社と提携して大都市などから農園にきてもらい、芋掘りや鍋をつくり食べてもらうなど和気あいあいと農業体験を企画しています。「忘れられないからまたやってよ」と体験した方から声をかけてもらうこともあります。

また、経営資源として持っている5000坪の土地と温泉を活用して、コミュニティをつくろうと計画しています。栄養価の高い食材をおいしく食べ、日本では五指に入るくらいの濃度で、エビデンスもついているラジウム温泉に入る。長期滞在型で体を整えて日常生活に戻っても



らえるようなコミュニティを考えています。

INSの意味は医療、農業、社会福祉です。自然治癒を目的とした医師を常駐させて日々の健康管理や体の不安を安心へもっていく。未病を目指して日常生活に戻っても遠隔で管理できるようにし、土地に触れることによって自然と一体となり、“人がもつ本来の力”を引き出すとともに作物を育てる喜びを感じる。自立したいと考えている障がいを持つ方や高齢の方など、様々な人々とコミュニケーションが取れるようなそんなコミュニティを目指しています。

三重県で介護や農業をして地域資源の一環である湯の山温泉にコミュニティをつくり、松太郎というキノコを地域資源として認めてもらう。膨大な計画ではありますが、ここまで仕上げようと考えている永石さん。中京圏と阪神の間にあり高速道路も通っている三重県。「これから三重県の時代になると思いませんか？」と明るい未来を目指しています。



新たな時代を切り開く農林水産ビジネスプランプレゼンテーション大会 2021年2月19日開催

昨年度の新型コロナウイルス感染症の拡大は、消費者の行動や価値観の基準、そしてビジネスを取り巻く環境を大きく変え、わたしたちに大きな衝撃を与えました。この時代を乗り切るための知識やスキルを専門家から学ぶ「新たな時代を切り拓く農林水産人材育成セミナー」修了者が、セミナー後のフォローアップを受け、今後のビジネスプランを発表する場として、令和3年2月19日三重県総合文化センター小ホールにて「新たな時代を切り拓く農林水産ビジネスプラン」プレゼンテーション大会(オンライン)が開催されました。出場者により、商品がもつ魅力や、今後の事業の可能性などが続々とプレゼンテーションされました。

